

男の子にも HPV ワクチン

HPV（ヒトパピローマ（乳頭腫）ウイルス）は、性関係を持つことで感染して広がるウイルスです。たくさんの種類があり、多くは自然に排除されますが、一部が残りさまざまな病気の原因になります。例えば、若い女性に多い子宮頸がんは、日本では毎年約1万人が発症し、約2,900人が亡くなっています。また、肛門がんの患者数は年間約1,000人、その他にも陰茎がん、尖圭コンジローマ、中咽頭がんなどを発症することがあります。

尖圭コンジローマとは、性器やお尻などにギザギザしたいぼができる病気です。日本での発症数は年間約78,000人です。がんではありませんが、再発しやすく感染するため注意が必要です。

海外のデータでは、性経験のある男性の90%以上、女性の85%ほどが一生のうちにHPVに感染するといわれています。HPVのワクチンは男女ともに有効で、予防効果は97%と絶大です。過去、女性に対しての接種が勧められない時期がありましたが、2022年から定期接種が再開され、現在では副反応による大きな問題は起きていません。

ワクチンの接種は、性交渉をもつ前の時期が効果的です。ワクチンの種類や年齢によって接種のタイミングや回数が異なり、小学6年生から高校1年生相当の期間に、一定の間隔をあけて同じワクチンを合計2〜3回接種します。

女性は定期予防接種として無料で受けられます。男性は任意接種のため自費ですが、費用を助成する自治体も増えてきていますので、この機会に接種を検討してみてはいかがでしょうか。